

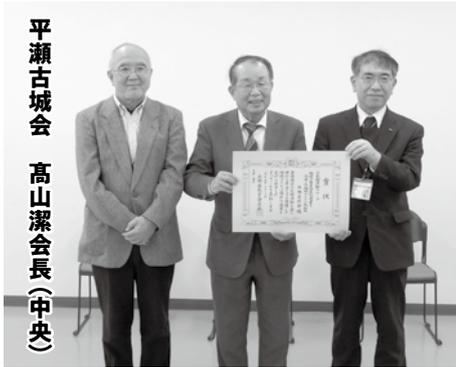


令和5年3月1日現在	
総人口	12,395人
男	6,018人
女	6,377人
世帯数	5,418世帯
島内公民館 電話	47-0264
FAX	40-1264

平瀬古城会・島内公民館

長野県公民館活動アワードを受賞

公民館活動アワードは、長野県教育委員会が、地域づくりの取組みにつながる公民館の学びの活動成果を評価・顕彰するものです。これは、公民館活動の活性化及び学びと自治の力を発揮した地域づくりの促進を図るために、令和元年より実施されています。今年度は、島内公民館が事務局となっている平瀬古城会が受賞しました。



平瀬古城会 高山潔会長(中央)

平瀬古城会は令和2年4月、平瀬城跡(松本市特別史跡・山城)を核とした関連史跡・文化財などの歴史遺産を、地区全体の取組みとして整備・保全・活用しながら後世につなげていくために発足しました。

会は、地区内の歴史・文化遺産関係者など55名で活動をしており「会員が楽しみながら、自由に意見を出し合い、積極的かつ主体的に行動すること」を、コンセプトにしています。

発足以来、同会はいろいろな活動をしてきましたが、印象に残るのは、令和3年10月、松本平で初めて開催した「平瀬城跡狼煙まつり」です。運営委員会において、会員から「本城跡で狼煙を上げたい」「和太鼓と火縄銃を披露したい」という希望が出ました。そこで狼煙の上げ方を学び、本城への太鼓や火縄銃の運搬



方法の検討を始めました。「やりたいこと」を「どう工夫すればできるのか」現地でのコミュニケーションもしました。無事終了した時はホッとしたことを覚えています。令和4年度は、他地区の山城と狼煙上げの連携を模索して関係者も引き、鉄砲隊や和太鼓も張り切っていました。雨天中止となり非常に残念でした。

また、平瀬古城会オリジナル・どぶろく酒を会員向けに造りました。会員より酒米の提供を受け、同じく会員の酒造会社の協力により100本を製造・販売いたしました。

「メイドイン島内」です。今年もおかげさまで、完売となりました。平瀬古城会を公民館が支え、多様な意見を取り入れ、人づくり・地域づくり・つながりづくりの取組みをさらに広げたいと考えています。平瀬古城会事務局長 上條光司

島内子ども会育成会

令和4年度子育て講演会

1月22日に島内公民館において開催された内容から一部を寄稿していただきました。

「柔らかい心をもつ」

私が、島内小学校に着任して、三年が終わろうとしています。コロナ禍の学校生活は、運営が難しい時もありました

が、校庭を走り回る子どもたちの姿に勇気をもらい、前を向けた日々でもありました。先日、島内子ども会育成会で講演をする機会をいただきました。その中でお話しした一部、「大人として」について少し触れさせていただきます。

私たち大人の間関係は複雑で、上手くいかないこと理由を他に責任転嫁しがちです。しかし、それで心豊かな



島内小学校 今井俊文 校長

生き方を送れるのでしょうか。

私は、青山峻(しゅん)氏の著書「泥があるから花が咲く」の中にある、「柔らかい心」をもつことが大切だと、常に心に留めています。相手を受け止める柔らかさを持たないと、受け手の自分も苦しくなってしまいます。「柔らかい心」は、包容力であり、多様性を認める心でもあります。そんな「心」を大切に育てることが、心豊かな生き方につながっていくのではないかと思います。

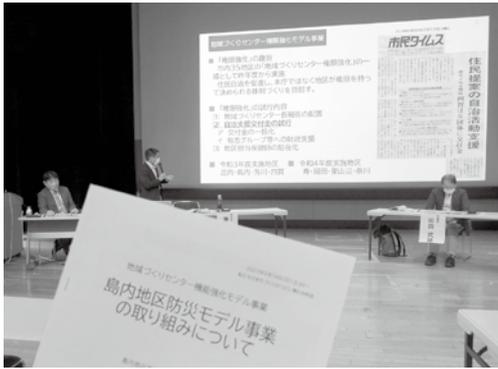
そのために、私自身も他者に対して感謝・謝罪・助力を認め伝える「ありがとう」「ごめんなさい」「おかげさま」をいつでも言葉にできるように心掛けています。

今後も、島内地区の皆様の温かなお支えをいただきながら、子どもの成長を見守っていきたいと思います。島内小学校長 今井俊文



令和5年2月23日 音文ホール 島内小学校合唱部

注目を集める 島内の防災モデル事業



去る2月19日(日)、Mウイングにおいて、「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」が開催されました。その中の「地域防災を進めるために必要なこと」地域づくりの視点から考える」と題した分科会で、勝家センター長、逢沢下田町会長、茂木北中町会長が実例発表をしました。

島内では令和3年度から防災モデル事業を進めていきます。特色としては、地区全体の事業に加えた町会ごとの取り組みが挙げられます。平瀬川東、下田、犬飼新田の川東3町会、松島、島高松に加え、令和4年度は高松、北中が加わりました。町会の中でこれ

まで培われてきた隣組の連携を活用して防災活動をさらに進めていくものです。

具体的には、下田町会からは、コミュニケーションを図る機会としての平瀬城跡の草刈り作業、避難支援として乗り合いタクシーの利用、通院先の把握など、日常の中から防災活動に活用できる事例が紹介されました。

一方で、参加者の中から「同じ島内でも住宅が増えた新しい地区では難しいのでは」という質問も出ていました。その点については、「先行する町会を参考にしつつ、防災活動を通じて新たな地域づくりを進めたい」と紹介された北中町会の活動方針は、防災と地域づくりを考える上で示唆に富んだものでした。

地区全体の事業の中では小中学校への学習機会の提供が特徴的です。特に中学生については即戦力としての学習という一面があり、このことは新しい観点として他地区の参加者からも注目されました。

終了後「これから島内を参考にさせていただきます」という感想が多く聞かれ、まさに「モデル事業」としての役割を十分に発揮した発表となりました。

仲間を集めて 「いきいき百歳体操」をやってみませんか?

いきいき百歳体操は手首や足首などに「おもろ」を使用した筋力トレーニングです。仲間と一緒にやるとより一層効果的です。島内地区では現在7カ所に百歳体操のサークルがあります。

2月14日に高松町会で体験会を行いました。高松町会窪田公民館長から「簡単な体操で年配の方が筋力を付けるのには良い。ほぼ全員の方が教室を開けば参加したいと話していた」と感想をいただきました。

5人以上のお仲間が集まれば、健康づくり課職員が百歳体操を始めるためのお手伝いをします。個人宅での実施もできますので、まずはお問い合わせください。

島内地区担当保健師 奥原
電話 47・0264



ギャラリーピアツザ 稲田隆・林英司 模型展

2月8日
3月3日

ギャラリーいっぱいのは鉄道模型展が、公民館を訪れた人々の目を引いていました。2月11日は、稲田さん林さんと一緒に列車を走らせること



生涯学習の 仲間づくりを目指して

島内農業文庫友の会では、会員同士の絆を深め仲間づくりを進めようと、初めて会員だけの「交流研修会」を行いました。身近にありながらきちんと勉強する機会がなかった、松本市時計博物館と松本市美術館を学芸員の説明を受けて見学し、改めて展示物や作品の素晴らしさを認識しました。

が出来、大勢の親子連れが集まりました。

期間中、毎日のように訪れた小学生の男の子もいて、スイッチを操作して列車を走らせたり貨物に乗せるなど、大人も子供も夢中で楽しみました。



レストランでの昼食会では、それぞれの意見発表や新入会員の自己紹介を行い、楽しい時間を過ごしました。

2月末には、犬飼己紀子さんの講演会「好奇心が若さを生む」を開催し、わかりやすいお話が好評でした。

会長 丸山 高司



公民館
ホームページ

地域づくりセンター
ツイッター